

## Box 2. オーストラリア及びニュージーランド：進展及び見通し

### オーストラリア

オーストラリアの成長は、主に国内需要の力強い伸びに牽引され、昨年の 2.5%から 2006 年は約 3%に加速すると予想される。原材料に対する中国の需要が伸びていることから、商品価格が高騰し、供給が追いつかない状況が発生したが、このボトルネックの緩和に企業が取り組んでいるため、設備投資は急速に拡大するとみられる。一方、民間消費は横ばい状態の住宅市場とガソリン価格の高騰が続く中、引き続き停滞するとみられる。

インフレは抑制されている。エネルギー価格の上昇と労働市場の改善により、物価に上昇圧力がかかっている。実際、現在の失業率は 5%と、過去約 30 年のうちで最低水準にある。だが、インフレは昨年が 2.75%、2006 年もほぼ同じ水準に抑えられるとみられ、オーストラリア中央銀行の長期目標レンジ 2~3%内に収まっている。このため、同中央銀行は 2005 年 3 月以来、静観の構えを続けている。

経常赤字は緩やかに縮小しているものの、有利な交易条件にも関わらず、当地域内では最大規模に留まっている。2006 年の経常赤字は、交易条件の改善が進むことから、対 GDP 比で約 0.5%減の 5.5%前後になると予想される。だが輸出量の伸びは、生産能力の制約を受けて、昨年とほぼ同じ 2.25%になる見込みである。

### ニュージーランド

高い成長が数年続いた後、経済は鈍化している。2006 年の成長は約 1%に減速すると予想される。住宅ローン金利の上昇によって、すでに進行中の国内需要の減少がさらに進むうえ、今年の住宅投資は激減すると見込まれる。

石油価格及び住宅建設コストの上昇により、インフレは目標レンジの 1~3%を若干上回っており、2006 年も同じ水準に留まると予想される。しかし、最近のデータは需給圧力及びインフレ期待が緩和に向かっていることを示唆しており、ニュージーランド中央銀行が政策金利を、2004 年初頭の水準よりも 225 ベーシスポイント高い現行の 7.25%に維持することを可能にしている。

景気後退を示すデータの発表やグローバル・キャリートレードの終焉に対する懸念を受け、非常に高い水準にあったニュージーランドドルは、ここ数カ月で急落した。それに従い、経常赤字は、今年は GDP の 9%に収まり、以後中期的に大幅に縮小するとみられる。